

日時：平成 26 年 11 月 6 日（木） 13：00～15：00

場所：船橋市民文化ホール ・ 船橋市中央公民館

住所：千葉県船橋市本町 2 丁目 2-5 047-434-5551

子どもが失敗すること

【趣旨】

今、小中学校の現場では「子どもに怪我をさせない」ということが大前提になっています。本当にそれだけでいいのでしょうか。それは私たち大人が自分の立場や利益を守るため、子どもに怪我をさせないようにする。しかしそれで本当に困るのは、危険を察知して自分の身を守るすべを知らずに育つ、子どもたち自身ではないのでしょうか。痛い、辛い、苦しい経験は失敗から這い上がる強さに繋がっていく経験とも言い換えることができます。事故や事件が多発する昨今において、子どもの失敗に、親がどう接していくかを皆さんと一緒に考えていきたいと思い、参加型講演を企画いたしました。

【要旨】

子育てしている半数以上の親が子育てに対して不安を抱えています。子育ての不安は、経済的なこと、教育的なこと、犯罪や事故なども含めた子どもが育つ環境のこと、支えてくれる人が十分にいないこと、漠然とした不安など、様々です。親の子育て不安は適切なサポートが得られなかった場合、より複雑化したり深刻化したりし、子どもの育ちにも影響してしまいます。非常に多くの情報を得ていながら、子どもにどう育てほしいのかということと実際の子育ての内容とがちぐはぐな例が見受けられるのも否めません。

子どもは子ども期に十分に受け入れられている感覚をもとに、失敗しながら成功体験を積み重ね、自己肯定感を得ていきます。この「失敗しながら」ということは実はとても難しいことです。子どもたちは、致命的なケガやトラブルから自分の身を守ることができるような力をつけて大人へと成長しなければなりません。そのためには小さなケガ、小さなトラブルをたくさん経験することが必要です。この経験には、失敗経験そのものだけでなく、見守られる中で失敗し、失敗しても受け止めてもらう経験が含まれます。つまり大人は、子どもが失敗すると分かっている見守り、失敗した時に受け止める力を持たなければなりません。このプロセスには、親が親であることの肯定感や親自身の肯定感が深く関係しています。

子ども期の肯定的な実感が、親の肯定的な実感にどのように関係しているかを読み解きながら、子どもが失敗しながら成功体験を積み重ねることへのかかわり方を一緒に考えていきます。

【講演講師】

植草学園大学 発達教育学部 発達支援教育学科 講師 小川 晶（おがわ あき）

学位（分野） 博士（社会福祉学）

【プロフィール】

現在の研究課題

保育士と子ども、子どもと親、親と保育士の関係性の変容分析をおこない、保育士による家族支援モデルを構築する。

主要著書・論文等

著書

- ・『少子社会の子育て力ー豊かな子育てネットワーク社会を目指してー』（共著）
2013年 学文社
- ・「保育所の安全・安心と地域の子育て支援」（単著）2012年『子どもの権利研究』第20号 子どもの権利条約総合研究所 日本評論社
- ・『保育における感情労働ー保育者が専門性を発揮するためにー』（共著）2011年 北大路書房
- ・『TEMでわかる人生の径路ー質的研究の新展開』（共著）2012年 誠信書房

論文

- ・「保育士の母親支援における母親の肯定感と養育態度の改善との関係」（単著）2013年 植草学園大学研究紀要第5巻
- ・「見え方の操作と保育ー表情・感情・化粧をどう考えるかー」（共著）2013年 エデュケア第33号 大阪教育大学幼児教育学研究室
- ・「高学歴・高齢出産の母親支援における保育士の感情労働のプロセス」（共著）
2011年 『乳幼児教育学研究』第19号 日本乳幼児教育学会
- ・「保育園における高学歴・高齢初産母子に対する支援ー母親と保育者の関係構築を基軸としてー」（単著）2011年 『保育学研究』第49巻1号 日本保育学会

